

ウスカワマイマイの見分け方



ウスカワマイマイは成貝で殻径 20mm くらいの小型で、殻は腰高で全体的に丸い形のカタツムリです。殻に帯は入りません。不規則な黒い斑紋がありますが、これは軟体の模様が透けて見えているためで、殻に模様はありません。色の違いも軟体の色が透けているためで、殻の色は同じです。成貝でも殻口はラッパ状に反転肥厚せず“幼貝型”のまま1年で成熟して産卵増殖し農作物に被害をおよぼします。



オナジマイマイは、ウスカワマイマイに次いで害虫化しやすいカタツムリです。近年、県内ではあまり見かけなくなりました。成貝で殻径 18mm 程度ですが、ウスカワマイマイに比べるとやや扁平で、斑紋は無く、成貝になると殻口は反転肥厚します。殻に赤褐色の帯が1本入ることがあり、ノトマイマイ幼貝と似ています。ティモール島からの移入種です。



ノトマイマイは、市街地でも見かける殻径 45mm 程度に達する大型種で、成貝になるまで4、5年を要します。稀に帯が0～1本の生育途中の幼貝をオナジマイマイと混同することがあります。殻径 20mm を超えて殻口の反転肥厚がなければ、まだ大きくなりますのでノトマイマイとみてよいでしょう。幼貝でも帯が2本以上あればノトマイマイです。近年、急激に個体数が減少しており、体の大きさの割には暴食することもあります。通常の状態では害虫にはならないでしょう。



カドバリニッポンマイマイは、大きさや斑紋でウスカワマイマイと間違われやすいですが、周縁の角張った円錐形のカタツムリです。斑紋も不規則なウスカワマイマイに比べ、やや規則的です。山沿いの林縁部で見かけることがありますが、むしろ希少種です。



ヤマタニシは、大きさや外形が一見、ウスカワマイマイに似ていますが、殻は厚く革質の蓋を持ち、眼は触角の根元にあります。成貝になると殻口は反転肥厚し、老成すると黒褐色の殻皮が剥離して白っぽく見えます。活動中は軟体の後背部に蓋を背負っています。